

### ◆「研究グループ紹介」の記事募集のお知らせ◆

本ニュースレターにおいて偶数月号に好評連載中の「研究グループ紹介」では、記事内でご紹介する研究グループを下記の要領で公募させていただくことになりました。皆様のご応募をお待ちしております。

**公募対象：**教育機関（大学及び高専）、および公的機関（国または地方自治体の所属機関）であり、原則として電気学会会員であることを条件といたします。

**公募方法：**電子メールにて、下記送付先に数行程度の紹介文を送付してください。

**送付先(記事公募共通アドレス)：** iaedit(at)iee.jp

**掲載可否：**産業応用部門編修広報委員会で審議の上、掲載の可否を連絡します。ただし、掲載原稿の著作権は学会に帰属し、文責は投稿者が負うものとします。

**公募期間：**随時受付いたします。



今年も暑い夏の季節がやってまいりました。皆様いかがお過ごしでしょうか。

暑さと省エネに負けないよう、日頃からの体調管理を心掛け、夏を乗り切りましょう。

今月号の巻頭言は、産業応用部門 交通電気鉄道技術委員会委員長の中村様(日本大学)に、装置やシステムの本質安全の重要性についてご執筆いただきました。原発事故を教訓に、今まで充分とされてきた様々な安全対策について見直す必要があるのかもしれない。

学界情報の国際会議レポートでは、2011年3月に米国アラバマ州オーバーンにて開催された ICIT-SSST について、東京理科大学の小泉先生にご執筆いただき、CIT、SSST の発足、セッションテーマ、会場などについてご紹介いただきました。時節柄、建物内にシェルターエリアがあるという記事も印象的でした。

また、研究会レポートでは、2011年3月に千葉工業大学にて

行われた電気学会産業計測制御研究会について、南方様(千葉工大)にご執筆いただきました。研究会の開催にあたり、様々な工夫がなされており、盛大に行われた様子が伝わってきました。

資料コーナーでは、太陽電池の利用による CO2 排出削減効果について紹介いただきました。原子力政策の大幅な見直しが予想され、休眠中の火力発電の再稼働が検討される中、CO2 の排出削減は国や企業にとって喫緊の課題です。その一助として太陽光発電のさらなる発展が期待されます。

また、9月6～8日に開催される産業応用部門大会の開催案内と参加申し込みについて掲載しています。今年は、琉球大学千原キャンパスで開催されます。参加申し込みは7月22日までとなっております。皆様、奮ってご参加ください。

最後になりましたが、ご多忙中にもかかわらず、本稿作成にご協力いただきました皆様に心より厚く御礼申し上げます。

エディタ 蓑輪 浩伸(NTT)

※ 本文中の E-mail アドレスをご利用になる場合には、“(at)”を“@”に置き換えて下さい。